

多高通信

第189号 令和3年7月29日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

熱戦！球技大会！

7月7日・8日の2日間、多高三大行事のひとつである球技大会が行われました。梅雨のせいもありあいにくの天候となりましたが、白熱した戦いが繰り広げられました。

各種目優勝チーム

ドッジボール 2・3 キックベース 2・4
サッカー 3・6 バレーボール 3・5
ソフトボール 2・6 ボッチャ 1・6

総合成績

優勝 3・6
準優勝 2・4
第3位 1・6



今年のクラスTシャツも個性豊かです！

■球技大会実行委員長

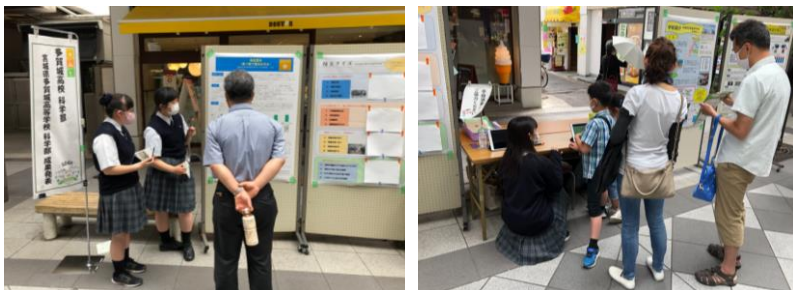
3年7組 菅田 和幸(田子中出身)

今回、球技大会実行委員長を経験し、やりがいや達成感を大いに感じることができました。天候やグラウンド状況が悪かったため、皆さんの良い思い出として残ったかどうかは不安ですが、無事に開催することができ、個人的にはとても良い思い出として残すことができました。先生方や実行委員のメンバー、部活動の生徒のみなさんにはたくさんのご迷惑をおかけしてしまっただけかもしれませんが、サポートしていただき感謝しています。本当にありがとうございました！

SDGスマニシエ 2021

6月27日、サンモール一番

町商店街アーケードで、尚絅学院大学 SDG推進プロジェクトアクシオン委員会主催による「SDGスマニシエ」が行われ、本校科学部の生徒9名が、学校紹介、防災クイズ、研究発表3題のプログラムで参加しました。日頃取り組んできた研究の成果を広く一般市民の方々にに向けて発表することで、生徒の思考力・判断力・表現力の向上や、生徒が他校や企業等の発表を見合うことで、サイエンスコミュニケーション能力の向上を図りました。



■2年4組 鈴木 敦也(岩切中出身)

今回のSDGスマニシエでは、マツの研究と学校紹介を担当しました。私は、最初ポスターを眺めている人に積極的に話しかけることができずにいましたが、先輩方からの助言もあって、最後には自分から積極的に話しかけるようになりまし。他の参加団体の方々の展示はとも興味を引くものばかりで、その中でも特に気になったのがカブトムシの幼虫飼育です。カブトムシの幼虫を羊の堆肥で育てると、他の飼育環境で飼育するよりも幼虫の体重が重くなるという発表でした。私はこれまで市販されている昆虫マットでしか飼育したことがなかったため、市販品以外でこんなにも幼虫が大きく育つことに驚きました。今回一般の方々に発表した経験や、他の団体の方々の活動を、自分のこれからの研究に活かしていきたいです。

■2年4組 高橋 ひなた(東仙台中出身)

SDGスマニシエに参加することで、私たち自身もSDGに対する意識を高めることができると思い参加しました。SDGスマニシエ当日は、私たちの展示発表に興味を持って足を止める方も多く、市民の方々に質問をされる機会も多くありました。私たちの知識不足で上手く質問に答えられない部分もあり、少し残念な気持ちではありますが、今回の展示における反省点をこれからの発表に活かしていきたいと思っています。

自然災害共同研究 釧路湿原巡検

7月1日から3日の3日間、北海道釧路湖陵高等学校との共同研究として釧路湿原巡検が行われ、

普通科2年1名、災害科学科2年2名の生徒が参加しました。釧路湿原巡検は、北海道釧路湖陵高等学校がSIE地域巡検として位置付けているものであり、北海道を代表する自然環境のもとで環境保全を目的とした環境調査の手法を学び、環境科学における科学的な探究手法を身に付けることを目的としています。また、本校独自に温根内ビジターセンターや猛禽類医学研究所、釧路市動物園を訪問することで、シマフクロウをはじめとした北海道固有の動物について、その形態的特徴や寒冷地における環境適応などを学び、課題研究や理科学習における自然環境の保全に関連した展開の一助とするものです。



■2年4組 船島 碧(多賀城中出身)

北海道釧路湖陵高校との交流の中で行われた達古武湖森林再生事業地でのフィールドワークで、私は「昆虫班」に加わり、昆虫の調査体験を通じて様々な手法を学びました。自然林や人工林などを回りながら昆虫トラップを回収し、各環境とその昆虫相を比較しました。森の樹林調査では、年輪から樹齢を知るだけでなく、年輪幅

などにより樹木が育った過去の環境を知ることができ

ることを学びました。大きな樹木を前に、目には見えな

SS野外実習 浦戸巡検

7月16日、災害科学科1年生が浦戸諸島で巡検

を行いました。露頭見学や試料採取に適した県内のフィールドにおける、地学・生物・化学分野の観察・調査の野外実習を通して、私たちを取り巻く地球環境を理解することが目的です。

■1年7組 大場 琉唯(多賀城中出身)

浦戸巡検に参加し、知ることができたこと、これから知りたいことの両方が増え、さらに浦戸諸島への関心が高まりました。

私の地学班は浦戸の地層について調査をしました。そこでは、教科書では正確に表記されない断層のずれや、観察用具の詳しい使い方など、初めてのものだらけでした。また、そこから生まれる疑問には先生方が丁寧に教えてくださり、必死に学びを深めようという気持ちになりました。「百聞は一見に如かず」という諺の通り、私たちは、今では感じるものが少なくなってしまう震災の記憶を身近に感じることができたと思います。

■1年7組 吉田 風菜

(多賀城中出身)

浦戸の地層や断層についてのたくさんさんの学びを得ることができ、また、実際に海辺の走向や傾斜の測定を行うことで、地学を学ぶ上での新たな一歩を踏み出すことができたと思っています。

ここで学んだことを活かし、地学を追究する心を大切にしていきたいです。

